



佐賀県産業イノベーションセンター

# 支援事例集



Saga Industrial Promotion Organization



公益財団法人 佐賀県産業振興機構

佐賀県産業イノベーションセンター

## はじめに

佐賀県産業イノベーションセンターは、公益財団法人佐賀県産業振興機構の一部門として、県内中小企業の生産性向上や売上向上、新商品・製品開発、人材確保などの様々な経営課題の解決に向けた支援活動を行っている中小企業支援機関です。

この度、これまで支援してきた中小企業の皆様の貴重な取り組みをまとめた事例集を発行するはこびとなりました。

本事例集には、私たちの支援に対する想いと、様々な業界の企業が抱える課題とそれらを解決するためのヒントが詰まっています。これらの事例が、皆様のビジネスのさらなる発展の一助となれば幸いです。

当センターは、今後も、常に変化する経営環境に対応できるよう、新たな支援の提供に努めるとともに、県内の中小企業の皆様を全力でサポートし、地域経済の活性化に貢献してまいります。

佐賀県産業イノベーションセンター  
所長 林 靖生

## ✓ CONTENTS

はじめに

01

目次

02

✂ Case01 03-04

✂ ものづくり振興課  
✕  
大栄工業株式会社

AIカメラ検査機器で効率化&  
展示会で販路拡大

✂ Case02 05-06

✂ ものづくり振興課  
✕  
株式会社アンスコ

生産管理をデジタルへ  
働きやすさと効率化を実現

✂ Case03 07-08

✂ ものづくり振興課  
✕  
有限会社 玉喜

4代目の挑戦！  
生産性と従業員の意識を  
高める取り組みを支援

✂ Case04 09-10

✂ ものづくり振興課  
✕  
株式会社ニシキ

世界最小のエンボスキャリアテープ  
製造技術で新たな市場開拓

✂ Case05 11-12

✂ ものづくり振興課  
✕  
株式会社佐賀セントラル

卸売中心から小売業へ事業拡大  
佐賀駅構内への出店を実現

✂ Case06 13-14

✂ 人材・経営戦略課（よろず支援拠点）  
✕  
株式会社九州パール紙工

全社一丸で進めるDX！  
デジタルツール導入から  
運用まで支援

✂ Case07 15-16

✂ 人材・経営戦略課（よろず支援拠点）  
✕  
武雄観光物産株式会社

コロナ禍を乗り越え、  
攻めの経営力でV字回復

✂ Case08 17-18

✂ 人材・経営戦略課（よろず支援拠点）  
✕  
有限会社赤門堂

補助金と県内クリエイターの  
力で新商品が誕生、  
アワード受賞へ

✂ Case09 19-20

✂ 人材・経営戦略課  
✕  
株式会社デタント

二度の浸水被害からの復活  
補助金活用とデザインの力で  
ギフト売上拡大

✂ Case10 21-22

✂ 技術振興課  
✕  
BIZYME株式会社

世界初の新技術で  
小型・高出力・高効率の  
モータを開発

✂ Case11 23-24

✂ 技術振興課  
✕  
山口産業株式会社

国内トップクラスの  
最先端素材を活用  
膜構造建築の新プロダクトを開発

✂ Case12 25-26

✂ 技術振興課  
✕  
コトブキテック株式会社

麦芽製造から醸造まで  
「佐賀の、佐賀による、佐賀のための」  
クラフトビールが誕生

✂ Case13 27-28

✂ 農村ビジネス振興課  
✕  
岸川農園

観光農園の立ち上げをサポート  
ブランディングと集客に成功

✂ Case14 29-30

✂ 農村ビジネス振興課  
✕  
大富牧場 FLYING COW

「牛乳のおいしさを伝えたい！」  
酪農から新規事業への挑戦

✂ Case15 31-32

✂ 農村ビジネス振興課  
✕  
りんふぁーむ

白石産タマネギ加工品の  
ブランディング  
ロゴやパッケージを刷新

センター概要

33-34



出展した展示会の様子



## AIカメラ検査機器で効率化&展示会で販路拡大

### Company 会社概要



工場外観

### 大栄工業株式会社

・従業員：180名 ・創業年：1976年

プラスチック製品の成形にまつわる全ての工程を自社で行い、高品質の製品を提供。

また自社で開発した画像検査機器の製造販売、合成樹脂販売事業も行う。

〒849-0112  
佐賀県三養基郡みやき町大字白壁1964

<https://www.daiei-gr.co.jp/>



### Challenge 課題

#### 製品検査の精度向上、展示会出展での販路拡大を目指す

製造工程に必要な製品検査は、これまで画像と目視検査により行われていた。しかし、既存の検査方法では手間がかかることに加えて、見落としが発生することがあり、その際には不良品の流出が問題となる。検査精度を上げて工数の削減を実現するため、AIカメラを搭載した検査機器の導入が検討されていた。また、自社製品である画像検査装置「みえるくん」の新規顧客開拓のため、展示会への定期的な出展の重要性は認識していたが、多額の出展費用がかかるという問題があった。



従来の生産ライン



### Solution 支援内容

#### 補助金で最新の検査機器を導入&大規模展示会に出展

イノベーションセンターで公募していた「さが「きらめく」ものづくり産業創生応援事業」における「生産性向上・高度化」と「販路拡大」の各補助事業を活用。令和3年度にAIカメラ搭載検査機器を導入、令和4年度に大規模展示会への出展を行った。検査機器導入や展示会への出展に際し、費用の一部を補助金により賄うことができ、経費負担を抑えることができた。AIカメラを搭載した検査機器を導入した生産ラインでは、検査時間が3秒から1秒に短縮され、検査精度が向上したことで不良品流出ゼロを実現させた。



AIカメラ搭載検査機器を導入した生産ライン



大阪の「ものづくりワールド」に出展

また、令和4年度に大阪で開催された「ものづくりワールド内計測・検査・センサ展」にブースを出展し、画像検査装置「みえるくん」の展示、PRを行った。出展した結果、30社以上と具体的な取り引きの話をする中で、10社以上との商談につなげることができた。今後もさらなる商談の機会獲得が期待できる。

Point  
ここがポイント!

AI検査機器で  
工数削減と品質向上&  
多数の商談機会獲得で新規開拓

### Impression 支援を受けて

イノベーションセンターにはさまざまな支援メニューがありますが、よく活用しているのが補助金制度です。これまでもたびたび支援をいただき、補助金を活用して事業を前進させてきました。

業務の効率化や販路拡大といった会社の課題に取り組む上で、重要なのが資金調達です。今回は最新鋭のAIカメラ搭載検査機器を導入することができ、生産性の向上だけでなく、社員の負担軽減にもつながりました。検査機器の導入によって品質の向上が実現し、当社の競争力強化に大きく寄与したと感じています。

今後も設備面の改善や新規開拓といった場面で活用したいと考えています。同じように課題を抱えている県内の事業者の方は、ぜひ気軽に相談してみてください。

営業グループ 山下直行





新たに導入した機器でネジの生産本数をリアルタイムに確認

## 生産管理をデジタルへ 働きやすさと効率化を実現

### Company 会社概要



九州工場外観

### 株式会社アンスコ

・従業員：120名・創業年：1939年

愛知県に本社工場を置き、精密機器に用いるネジをはじめとする精密締結部品の生産、ゆるみ止め加工などを手がける。

九州・タイにも生産拠点を有する。

〒 849-4166

佐賀県西松浦郡有田町北ノ川内丙 319  
前原工業団地内（九州工場）

<https://ansco.co.jp/>



### Challenge 課題

#### ネジ生産本数のアナログな管理方法が 従業員の負担に

九州北部には自動車関連工場が集積しており、そこで生産される自動車に使用する止めネジを株式会社アンスコ九州工場で作成し、供給している。

支援を受けるまでは製造に使用する転造機から排出された大量のネジをカゴに入れ、人の手によって重量計に乗せて計測、その重さから本数を割り出すという方法で生産数を管理していた。この方法では正確性に限界があるほか、ネジの入ったカゴは非常に重く、一日に何度も持ち上げることで身体的負担や手間が課題に。

ネジ生産本数の管理を自動化できないか模索していた。



従来の計測方法



### Solution 支援内容

#### ネジを計測するタッチセンサと 数値管理のための機器を導入

今回は「ものづくり産業 AI・IoT 導入支援事業」を活用。1台の転造機にタッチセンサを設置し、製造されたネジをセンサが検知することで生産数が自動で計測される仕組みを考案した。大手企業のOBである専門員が訪問を重ねて製造工程を入念に観察し、センサ導入の提案に至った。同時に導入したPLCとタッチセンサを連動させることで、液晶モニターにリアルタイムで生産数が表示されるシステムを構築し、生産状況の見える化につながった。これによりネジの重量を計測する必要がなくなり従業員の負担が軽減、作業効率がアップした。



株式会社アンスコが製造する精密締結部品



センサを設置した転造機。  
2つの転造ロールの間に針状のセンサがある

また、PLCで算出される毎分当たりの生産速度に着目し、生産速度と不良率との関係性の分析にも着手。不良率が最も低くなる理想的な生産速度を割り出し、標準化することに成功した。これまでは作業者の感覚で生産速度を調整していたため、不良率や生産数が安定しなかったが、生産速度を標準化したことにより生産数を10%ほど向上させることが出来た。

Point  
ここがポイント!

自動化により従業員の身体的  
負担軽減、生産数も増加

### Impression 支援を受けて

転造機は九州工場全体で数十台あり、従業員1名につき6台ほどを監視する体制で製造を行っています。常に1人が1つの転造機に張り付いていることはできないため、本数の計測も後でまとめて行わざるを得ません。

新たな機器の導入によりリアルタイムで生産数を把握できるようになったことで、従業員の負担が減っただけでなく生産効率がアップしました。人力で行っている重量計測の時間を1年分の人件費に換算すると、転造機1台あたり数十万円に相当します。大幅な経費削減効果があったため、今後は他の転造機にも導入を検討中です。イノベーションセンターの方は何度も足を運んで効率化への道と一緒に探ってください、感謝しています。

技術部 部長 平川 新治



SAGA NORI ICHIRYUHAMMA  
PRODUCT OF O-DAKUMA

大詫間支所産  
一流浜



4代目 寺田 和弘氏

## 4代目の挑戦！生産性と従業員の意識を高める取り組みを支援

### Company 会社概要



社屋外観

### 有限会社 玉喜

・従業員：70名 ・創業年：1968年

佐賀県有明海の家産海苔を扱う問屋。各種海苔の生産や販売を行うほか、乾椎茸の問屋としての顔も持つ。2020年には日本食品認定機構HACCPの認証を取得。

〒840-0012  
佐賀県佐賀市北川副町光法 1777-10  
<https://tamaki42.jp/>



### Challenge 課題

#### 従業員のモチベーションや生産効率の課題解決を目指す

これまでは従業員の明確な目標設定や評価制度がなく、現場のモチベーション低迷を引き起こしていた。また、生産工程における製品の廃棄率が従業員毎で異なるなど、個人差が出てしまうという課題もあった。

2020年、後に事業承継を控えた4代目の寺田和弘氏がイノベーションセンターの経営者塾を受講。そこで得た知識や経験をベースにさまざまな課題を解決に導き、未来に向けて強い企業へと成長させるべく改革に取り組んだ。



海苔加工品製造の様子



### Solution 支援内容

#### 経営者塾で経験豊富な専門員から経営全般について学ぶ

通常、経営者塾は1年で完結するカリキュラムになっているが、和弘氏は3年間継続的に受講して習熟度を高めた。大手企業で経験を積んだ専門員の支援を受けながら、海苔の生産に関する課題を洗い出し、生産ラインの適切なメンテナンス時期などを明確化。設備の定期清掃のタイミングを設定したほか、割れの原因を上流工程まで遡って特定、対策した結果、月の生産数が3.2%（3万食分）向上した。



玉喜で製造販売している商品



商品の製造風景

改革を始めた当初は新たな取り組みを社内に定着させることに苦慮したが、経営者塾での学びを根気よく実行することで、浸透させていった。各従業員に目標を持たせ、達成度に合わせて給与評価を取り入れることによってモチベーションもアップ。2カ月に1度の面談も欠かさず行い、自己評価と他者評価のすり合わせも継続している。

Point  
ここがポイント！

課題を明確化し、  
対策したことで  
生産数もモチベーションもアップ

### Impression 支援を受けて

生産工程で起こる不良率を数値で表すことによって「お金を捨てている」「余計な時間がかかっている」という感覚を従業員に浸透させ、コスト意識を持ってもらうことを目指しました。数値を口頭で伝えてもわかりにくいので、グラフにして工場のモニターに表示し、変化を実感してもらうことでモチベーションにつなげています。

経営者塾を通じて最も重要だと感じたのは「目標設定」です。自分たちで課題を見つけ、自分たちで目標を決めるからこそ行動が長続きます。部門ごとに1年間の目標を立ててもらい、3カ月に一度発表してもらう取り組みも始めました。はじめは戸惑う社員もいましたが、今では文化として根付いています。経営者は自分だけが頑張るのではなく、いかにして従業員を巻き込むか、どうすれば組織が良くなるのかという視点を持つことが重要です。3年間を通して経営者としての視座を高めることができ、私にとって大きな財産となりました。

代表取締役社長 寺田 和弘





## 世界最小のエンボスキャリアテープ 製造技術で新たな市場開拓



支援を受けて出展した展示会の様子

### Company 会社概要



世界最小のエンボスキャリアテープを製造する九州工場

### 株式会社ニシキ

・従業員：248名 ・創業年：1977年

合成樹脂、電子部品搬送資材、プラスチック製品の製造販売を行う。

半導体の微細加工部品から大型異形部品をテーピングするエンボスキャリアテープを製造。

〒841-0042  
佐賀県鳥栖市酒井西町634番地1

<https://www.nishiki-tpt.jp/>



### Challenge 課題

#### 潜在的な市場を開拓すべく 新たに展示会出展へ

同社はエンボスキャリアテープを生産する国内企業で唯一クリーンルームを持ち、世界最小のエンボスキャリアテープを製造する技術を有する。これらを活かして販路開拓すべく潜在的な市場を探索する中で、展示会出展に可能性を見出していた。

しかしこれまで出展経験がなく、装飾デザイン、効果的な展示方法、来場者との商談技術など具体的なノウハウが社内不足していたため、イノベーションセンターに専門的な助言と支援を求めることとした。



半導体梱包材のエンボスキャリアテープ



### Solution 支援内容

#### 準備から当日までトータルで 出展をサポート

令和5年度半導体魅力発信事業を活用し、12月と1月に開催された半導体関連の展示会において小型部品の梱包資材エンボスキャリアテープを展示。イノベーションセンターは準備期間から当日まで包括的な支援を提供した。

事前に同社を訪問し、取り組むべき具体的なタスクを明確にすることで、出展成功に向けたロードマップを可視化。出展手続き、製品の展示方法等に加え、費用面でのサポートも行った。さらに事前にコーディネータがきめ細かいヒアリングを行い、同社の見込み客となりうる企業を事前に特定し、当日は同社のブースへと案内した。



販路拡大の足掛かりとなった展示会のブース



3Dプリンタで作成した、エンボスキャリアテープの一部分を拡大した模型

そのサポートもあり、企業2社との新規契約締結が短期間で実現。加えてブースを訪れた同業他社と情報交換ができ、貴重な人的ネットワークの構築も実現した。イノベーションセンターでは集客が見込める場所を確保しており、そこに複数の県内企業がまとまって出展したことも良い影響を与えた。

Point  
ここがポイント!

展示会での商談を契機に  
新規契約締結へ

### Impression 支援を受けて

出展に際し、当初は準備の方法などがわからず不安を感じていましたが、イノベーションセンターの支援によりスケジュール管理から出展準備まで丁寧なガイダンスを受けることができました。また、半導体業界の経験を持つ専門家がサポートしてくださり、新たな企業とのつながりも作れました。出展の結果、2社から受注を勝ち取ることができ嬉しく思います。

準備過程では社内チームの創造性も発揮されました。3Dプリンタを活用した製品の拡大展示はその一例です。国内唯一のクリーンルームでの製造という当社の独自性も、これらの成果に寄与したと考えています。今後もご支援をいただきながら販路拡大に取り組んでいく所存です。

九州工場長 松本 貴司





「CENTRAL BEEF」外観



## 卸売中心から小売業へ事業拡大 佐賀駅構内への出店を実現

### Company 会社概要



サガハツ内に光るサイン

### 株式会社佐賀セントラル

・従業員：6名 ・創業年：2014年

JR佐賀駅構内サガハツにて「CENTRAL BEEF」を運営。  
黒毛和牛の精肉加工・販売、牛肉料理のテイクアウト・  
デリバリー販売を行う。

〒840-0801

佐賀県佐賀市駅前中央1丁目11-20 サガハツ

[https://www.instagram.com/central\\_beef\\_saga/](https://www.instagram.com/central_beef_saga/)



### Challenge 課題

#### 事業継承を機に、卸売中心から小売業へ 販売チャネルの拡大を

先代が始めた事業は、牧場の運営および内臓肉を主とした牛肉の卸売業を中心に展開してきた。しかしながら内臓肉の卸売業は生産量と販売方法に限りがあり、これ以上売上を伸ばすことは困難だと感じていた。

また、地元だけでなく各地の魅力あるブランド牛を販売したいという思いもあった。

そこで2022年に事業承継した際にこれまでの牛肉販売に加え、広く加工食品などを取り扱う BtoC 事業の展開を目指す戦略を立てた。



同社が販売する佐賀牛



### Solution 支援内容

#### 佐賀駅構内に精肉と総菜を販売する 専門店を開業

2023年4月に佐賀駅のサガハツ内に精肉と総菜の専門店「CENTRAL BEEF」を開業。その際、第4弾チャレンジ支援補助金(1次募集)を活用してミンチ機やフライヤー・ガステーブルなど調理に必要な厨房機材一式を導入した。

店舗では、提携する白石町の佐賀セントラル牧場などから仕入れた牛肉、店舗内で製造した総菜や弁当を販売。佐賀産米や野菜を使った「さかのべんとう」、牛チャーシューや牛しぐれ、ローストビーフなどが人気を呼んでいる。



看板商品「さかのべんとう」



補助金により導入したミンチ機

佐賀駅の利用者だけでは苦戦を強いられる中、駅周辺で働く人もターゲットとし、近隣施設へのデリバリーも展開。結果、新規顧客を着実に増やし、会社全体で前年比(2022年)約3倍の売上を記録した。

Point  
ここがポイント!

補助金の力が挑戦を後押し。  
店舗開業により売上拡大へ

### Impression 支援を受けて

事業継承は既存経営を引継ぐだけでなく、新たな可能性への挑戦を意味していました。補助金の存在は資金面での安心感だけでなく、チャレンジを後押しする心強い支えとなりました。現在は佐賀セントラル牧場の精肉を中心に販売していますが、ゆくゆくは全国の魅力的なブランド牛をお客様に届けたいと思っています。長年培ってきた精肉加工の技術で、それぞれの牛肉の特徴を活かして最高の状態で提供し、全国の牧場と消費者を繋ぐ架け橋になっていきたいと考えています。最終的な目標は「佐賀駅に来ればおいしいお肉のお土産が買える」と多くの方に認知される店舗づくりです。これからも佐賀牛の魅力を発信しながら、日本の畜産業界への貢献を目指します。

代表取締役 吉原 龍樹





## 全社一丸で進めるDX! デジタルツール導入から運用まで支援



連携を図りながらDXを推進している

### Company 会社概要



本社外観

### 株式会社九州パール紙工

・従業員：145名 ・創業年：1966年

創業以来、食品関連の商品パッケージを企画から製造、販売まで一貫して手がけてきた。

食文化の多様化に伴い幅広い顧客ニーズに対応している。

〒849-0302

佐賀県小城市牛津町柿樋瀬 468番

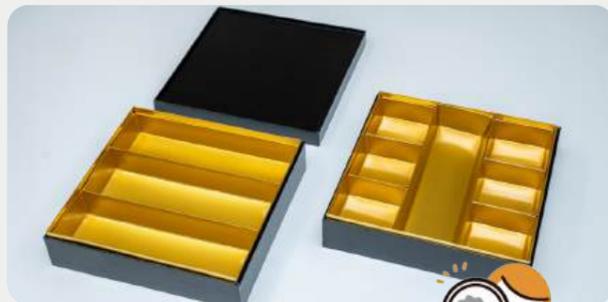
<https://www.kyusyu-pearl.co.jp/>



### Challenge 課題

#### アナログ受発注からの脱却、 社内情報ネットワークの構築を目指す

発注の電話が営業担当に直接かかって来る、注文のFAXが遅い時間に届いて対応に追われるなど、社員への負担が大きいアナログな環境が課題となっていた同社。物流拠点も兼ねる本社と13営業所間の連携を強化し、各顧客からのデジタル発注の比率を上げることによって、現場負担の軽減と社内情報共有の効率化を目指す必要があった。管理部・営業部・物流部といった部門間の情報共有も急務だった。



同社で取り扱う商品



### Solution 支援内容

#### 業務全体の最適化を視野に入れ、 デジタル化を推進

支援は、全社的な業務フローの見える化からスタート。部門間の情報共有を円滑にするため「ドキュワークス」などのITツールを導入したところ、FAXの廃止や電子化の進行により紙の使用量が80%削減、導入費用の回収が早期に実現した。また、受注業務の効率化を目指して受注システム「アシスト」を導入。営業担当から顧客へ発注方法のレクチャーも行った。



受注システム「アシスト」発注画面のイメージ



同社商品の使用例

結果、ほぼ100%アナログだった受発注が、導入後1年で45%までデジタル化した。注文を受ける締め切り時刻の設定によって効果的なフィルタリングも実現、夜間対応の負担も軽減した。各種ITツールの導入に伴う社内ルール策定も支援し、導入後のスムーズな運用につながった。

### Point ここがポイント!

デジタル化、ペーパーレス化が  
進み費用削減、負担軽減!

### Impression 支援を受けて

これまで電話などのアナログなコミュニケーションツールの使用率が高く、早急にITツールへ移行し現場の負担や部門間の連携を図れないかと感じていたところに「アシスト」や「ドキュワークス」導入の提案をいただきました。なにより社員がツールを理解する必要がありますが、丁寧に指導いただいたおかげで確実に現場の負担が減っているのを実感しています。以前はオフィスにFAX用紙が積み上がっていましたが、それもかなり解消されました。デジタル化によって業務効率が向上したのはもちろん、煩雑さが軽減され社内に良い余白が生まれていると感じます。今後も段階的にさらなる業務改善を進める所存です。

代表取締役 坂本 淳



### Message 支援担当からのメッセージ

社員の皆様が一丸となって取り組まれる姿勢が印象的でした。果敢に挑戦を続ける九州パール紙工様をこれからも応援しております。

佐賀県よろず支援拠点  
コーディネーター 中島 章雄





一新した店舗で商品をPRする  
後継者の大渡 利勝氏(右)と従業員

## コロナ禍を乗り越え、 攻めの経営力でV字回復

### Company 会社概要



武雄温泉物産館 外観

#### 武雄観光物産株式会社

・従業員：40名 ・創業年：1998年

武雄市の特産品や生花など幅広い商品を展開し、食堂も備えた「武雄温泉物産館」を運営。

スイーツをはじめとするオリジナル商品開発にも注力している。

〒 843-0023

佐賀県武雄市武雄町昭和 805

<https://takeo-onsen-bussankan.com/>



### Challenge 課題

#### 売り場改善により、地元客にも愛される 店づくりを目指す

以前は土産品店として遠方からの団体旅行客を対象としていたが、コロナ禍で経営状況が悪化。財務分析を行い事業全体の見直しを図った結果、利益率の高い商品開発の必要性、レジへの導線の改善、リピーターを増やす仕掛けづくりなど具体的な課題が洗い出された。また、観光客をメインターゲットとした館内レイアウトは地元客には利用しづらい面もあり、改善を要した。



武雄温泉物産館で販売する焼き菓子



### Solution ✓ 支援内容

#### お客様目線で店舗を一新。 イメージアップで売上向上へ

レジ配置の変更、人気のある生花売場の拡大など、来店者の利便性を高め購買意欲を持ち上げるような店舗レイアウトに一新。  
SNSを活用したタイムセールの実施、若者向けのスイーツや佐賀の大豆を使ったプロテインを開発するなどして、新たな顧客層の開拓にも力を入れる。  
補助金制度を最大限に活用して照明の増設やブランディングを進め、店舗全体のイメージアップを図った。



拡大された人気の生花売り場



今回開発した、佐賀県産大豆を使ったプロテイン

コロナ禍で売り上げが3割以上落ちた期もあったが、V字回復を果たし前期はここ10年で最高の売上および利益となった。後継者である大渡利勝氏は佐賀県よろず支援拠点主催「後継者経営塾」に参加し、事業承継を見据えた成長戦略を策定中。今後も顧客満足度と売上の向上を目指していく。

Point  
ここがポイント!

V字回復を果たし  
増収増益に成功!  
後継者も順調に成長

### Impression 支援を受けて

佐賀県よろず支援拠点の無料相談を利用して良かったことは、さまざまな分野のプロフェッショナルが揃っており、経営に関する幅広い相談ができる点です。  
専門家のアドバイスを受けることで、赤字事業からの撤退や、店内の大幅なレイアウト変更など思い切った行動がとれ、結果にもつながりました。よろず支援拠点を利用するほかの事業者との交流機会も得られ、店舗での対面販売や商品開発など、地域に根ざした事業を展開していく上で非常に助かっております。  
現在は経理周りのDXや会社のブランディングなどについて相談中です。今後も佐賀の特産品や農産物を充実させ、地域住民と観光客、そのどちらからも愛される場所として邁進します。

営業部長 大渡 利勝



### Message 支援担当からの メッセージ

高い視座で精力的に経営改善に取り組む姿勢に感銘を受けました。地元の憩いの場としても愛される武雄温泉物産館さんの挑戦に今後も伴走いたします。

佐賀県よろず支援拠点  
コーディネーター 今里 暁子





## 補助金と県内クリエイターのかで 新商品が誕生、アワード受賞へ



今回の事業で開発した「ミニぼうろ」

### Company 会社概要



店舗外観

#### 有限会社赤門堂

・従業員：3名 ・創業年：1949年

創業以来、鹿島で愛される銘菓づくりに取り組み続けている。

1994年には街路事業に伴い店舗を一新、四季のお菓子と郷土銘菓の店としてリニューアルした。

〒849-1311  
佐賀県鹿島市高津原 4305-6

<https://akamondo.com/>



### Challenge 課題

伝統菓子「丸ぼうろ」の新規顧客層を開拓したい

同社で長年製造販売してきた丸ぼうろは佐賀を代表する郷土菓子であるが、九州外では知名度が低く、特に若年層にはなじみが薄くなっている。

伝統の味を大切にしつつ、現代の若者に受け入れられる新たな視点で丸ぼうろを再評価し、新しいアプローチでブランド価値を高め、新規顧客層の開拓を図ることが求められていた。



これまでに開発してきた商品



### Solution 支援内容

補助金活用とデザイン支援で  
新商品開発を後押し

佐賀県の「ものづくり企業イノベーション促進事業費補助金」を活用し、県内クリエイターとのコラボレーションで新商品「ミニぼうろ」を開発。  
佐賀県よろず支援拠点では補助金申請をサポートし、商品のデザインやパッケージの改善にも助言を提供した。



「S-1アワード」上位30品目に選ばれた認定証



食べ比べセットも発売

さらに既存商品と組み合わせた魅力的な商品も生み出し、佐賀県・佐賀商工会議所による「S-1アワード」にエントリー。「1万人が選んだ佐賀のおススメお土産30品」に選ばれた。結果、若年層へのアプローチが強化され、ブランドの再構築と新たな顧客層開拓への期待が高まっている。

Point  
ここがポイント!

新商品×デザイン力で  
若年層にアピールし市場拡大

### Impression 支援を受けて

補助金申請やアワードのエントリーに関してわからない点が多く、佐賀県よろず支援拠点に相談。課題の整理から始まり、問題解決への道筋を丁寧に教えていただきました。

まさに「伴走型」といえるサポートで、申請書類やエントリー内容のクオリティが格段に向上。無事に補助金採択、受賞につながり、感謝しかありません。

その後も商品開発や市場拡大のアイデア、パッケージデザインなどについて多くの情報、多角的視点からのご意見をいただきました。

さらに味の評価、販売方法、情報発信やPOPの描き方に至るまでアドバイスをくださるなど、細やかな支援に大きな心強さを感じています。

会長 福山 暢生



### Message 支援担当からのメッセージ

新しい視点で丸ぼうろの魅力さをさらに広めることができました。今後も伝統を守りながら挑戦し続ける企業として発展を期待しています。

佐賀県よろず支援拠点  
チーフコーディネーター 大村一雄





リニューアルしたパッケージや広報ツール。  
写真中央奥のパッケージは、グレーとホワイト  
のラインで武雄の山並みを表現している

## 二度の浸水被害からの復活 補助金活用とデザインのカで ギフト売上拡大

### Company 会社概要



店舗外観

### 株式会社デタント

・従業員：23名 ・創業年：2008年

創業以来、菓子製造・販売を通して地域に根付く店舗  
作りに取り組み続けている。

二度の浸水被害を乗り越え、2023年には売り場やイメージ  
を再構築して営業再開を果たした。

〒 843-0001  
佐賀県武雄市朝日町大字甘久 1444-2  
<https://detente.jp/>



### Challenge 課題

## 新たな発想でのトータルブランディングで 認知拡大へ

2019年からの3年間で豪雨による浸水被害を二度経験したが、  
地元への強い想いから武雄の地で再出発を決意。敷地内で嵩上げ  
移転し、空間デザインにこだわった新しい店舗をオープン。  
しかし、店舗の建て直しに資金や労力が取られ、認知度拡大  
や売り上げアップにつなげるリブランディングにまで手が  
回らない状態に。従来のデタントらしさを残しながらも過去に  
とられない新たな発想でリブランディングに力を入れること  
が求められていた。



店舗内観



### Solution 支援内容

## 補助金採択、クリエイターの 伴走支援でリブランディングに成功

「ものづくり企業イノベーション促進補助金」を活用し、  
武雄市を拠点とするクリエイターの支援を受けて、トータル  
ブランディングの一環として広報ツールをリニューアル。  
ウェブサイトや店内POP、商品パッケージ、フライヤーを刷新  
したほか、オリジナルソング制作やイベント企画も行った。  
特に商品パッケージは地域の特色を感じられるものにしよう  
と、武雄の山並みをイメージしたデザインを採用。



店内の掲示物も新たに制作した



伴走支援の様子

地元の人を選ぶ「ローカルギフト」として贈答品関連の  
売り上げは2倍近くに上がった。  
ブランド力を向上させることができたことで、今後さら  
なる売り上げの向上、市外や県外も見据えた認知拡大へ  
の期待が高まっている。

Point  
ここが  
ポイント!

地域色を感じるデザインで  
ギフトの売上アップ!

### Impression 支援を受けて

自分たちだけのブランド力強化に限界を感じたため、支援を依頼。  
おかげさまで補助金に採択され、武雄市在住のクリエイターさんの  
伴走による各種ツールのリニューアルを含め、弊社のトータルブラン  
ディングのために、お店の一員のように同じ目線でサポートして  
いただきました。  
POPやパッケージ、フライヤーのデザインが魅力的になりイメージ  
アップに成功。売り上げと認知度の拡大につながり、  
感謝しかありません。  
さらに、オリジナルソングの制作やイベント開催など、  
従来の菓子店の枠を超えたPRまで実現できるとは  
思ってもみませんでした。  
お店を再開して約一年、これほどまでの前進は支援が  
なければ叶わなかったことだと感じています。

オーナー・パティシエ 相森 真一

### Message 支援担当からの メッセージ

取り組みの成果として、売り上げと  
認知度拡大を実現できました。  
今後も地域に根ざした文化を継承・発展  
させる存在としてさらなる  
成長を期待しています。

人材・経営戦略課  
課長 羽根 大貴



人材・経営戦略課 TEL：0952-34-4422



量産化に適したアモルファス合金の生成を実験する様子

## 世界初の新技術で小型・高出力・高効率のモータを開発

### Company 会社概要



BIZYME Inc. Imari Lab.

### BIZYME 株式会社

・従業員：8名 ・創業年：2021年

独自の磁性材料による新技術を開発し、モータ効率を改善。カーボンニュートラルの実現に貢献する。伊万里工場での量産化に向け研究開発を行っている。

〒848-0041  
佐賀県伊万里市新天町 471-8  
<https://bizyme.net/>



### Challenge 課題

#### 高効率なモータを開発し、電気自動車向けの製品として展開を目指す

電気自動車などで使用されている従来のモータは、小型化による低効率という課題が残されていた。さらにモータに必須の磁石は中国産のレアアースを原料とするため、安全保障上の問題もぬぐえない。それらを解決する上でモータの核となるコア材と磁石の開発が求められていた。そこで自社が得意とする磁性材料の開発技術を使い、環境に優しく高効率のアモルファス合金を使ったモータを開発したいと考えた。



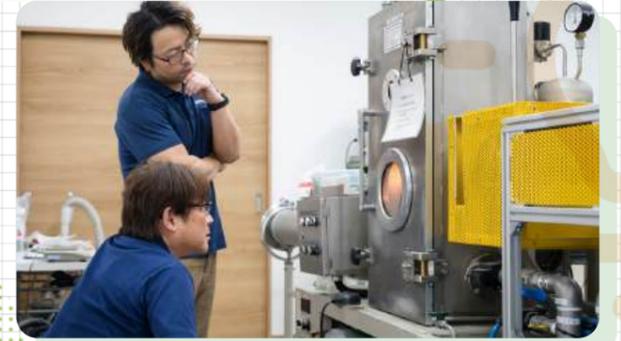
自社製造したアモルファス合金のサンプル



### Solution 支援内容

#### 素材の開発から製造ラインまで。世界初の技術をサポート

今回は中小企業庁の補助事業「戦略的基盤技術高度化支援事業」を活用。モータの性能を上げるアモルファス合金を使ったコアと、中国に偏在する重希土類元素を使わない磁石の開発を支援した。事業期間中は定期的な検討会を開催し、開発課題に対する意見交換を実施。また、量産化が困難とされてきたアモルファスモータの開発に関して、ホットな外部情報を細やかに共有した。



開発の様子



モータコアの材料となるアモルファス合金の素原料

結果として、モータ向けアモルファス合金の開発に成功。さらにアモルファス合金の加工技術にも目途を付け、アモルファス合金をつかった量産可能なモータコアを世界で初めて製造。高いモータ出力を維持した状態でモータ効率 99% を達成した。これにより、磁性材料開発からモータコアまでの一貫製造による次世代高効率モータが誕生した。

Point  
ここがポイント!

世界を舞台に、  
カーボンニュートラルに向け  
高効率モータを開発

### Impression 支援を受けて

今回の取り組みを行うまでは、真の意味で省エネやカーボンニュートラルに直結する事業ができていないと感じていました。しかし今回、高性能モータを開発したことで、世界にも注目されるようになり、ひとつの目標が達成できたことを嬉しく思います。研究開発には多大な費用と時間がかかりましたが、イノベーションセンターの心強いサポートがあったおかげでこの事業が成功したと感謝しています。現在はこの技術を世界中に広げていくため、量産化に向けた実証実験を続けています。2025年度には「ネクストコアテクノロジーズ伊万里工場」(仮称)を建設。これからも佐賀から世界に向け、地球温暖化対策の主役となる技術を発信していく所存です。

CEO・CTO 金清 裕和





東京での展示会でPRした  
ETFE膜構造

## 国内トップクラスの 最先端素材を活用 膜構造建築の新プロダクトを開発

### Company 会社概要



社屋外観

### 山口産業株式会社

・従業員：140名 ・創業年：1972年

幅広い事業領域で膜構造建築による課題解決に取り組んでいる。

2017年に国内認可されたETFE素材にいち早く着目し、膜構造業界を一新させるプロダクトの開発に乗り出した。

〒 846-0031  
佐賀県多久市多久町 3555-120

<https://membry.jp/>



### Challenge 課題

#### 最先端素材を活用した新製品開発を迅速に 始動させるためのトータル技術の開発が必要

創業以来、新しい未来を生み出す膜構造物の製造に邁進してきた同社。

今回、海外の先進的な建築事例で多く用いられているフッ素ベースのフィルム「ETFEフィルム」に着目。

従来と異なる新素材を取り扱う機材の導入とあわせて、技術習得に取り組むこととなった。

今後の事業拡大が見込まれる市場ニーズに対応するため、迅速な製品開発の始動が求められていた。



打ち合わせの様子



### Solution ✓ 支援内容

## ETFE 膜構造建築の事業化に向けて 補助金を活用

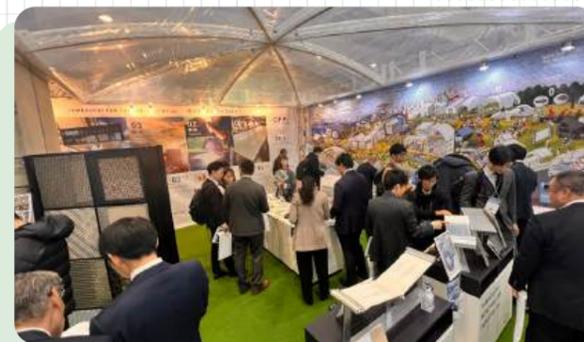
「きらめく」新技術・新製品開発補助事業の補助金を、ETFEフィルムを製造するための技術開発や強度試験、モックアップを媒介に、多層膜設計法、固定フレーム構造などの技術深耕に活用。

幅広い情報収集や意見交換を行い、ETFEフィルムを使った膜構造建築物の事業化へと着実に進捗した。

ETFEフィルムの技術を確認させたことで、顧客にソリューションとしてETFE膜構造建築の現物を見せながら提案することが可能に。



ETFE膜構造建築のモックアップ



東京で行われた展示会の様子

東京で行われた建築関連の展示会に出展した際、大手設計会社や総合建設会社に具体的なPRを行うことができた。2025年に開催される大阪・関西万博 (EXPO 2025) といった世界規模のイベントでも引き合いが寄せられ、今後の受注拡大に期待が高まっている。

Point  
ここが  
ポイント!

新規事業への参入を実現  
受注拡大に期待

### Impression 支援を受けて

新規事業参入にあたり、設計から施工まで一貫した技術習得が課題でした。補助金を活用して技術開発や技術習得が実現し、ETFEフィルムを使った膜構造建築のモックアップを開発することができました。需要が不確定な分野へ挑戦する中で、構想から事業化への第一歩を踏み出すきっかけとしてお力添えいただき感謝しています。「きらめく」新技術・新製品開発補助事業で支援を受けた後は、新規部署の立ち上げや社員数の倍増など、企業としても大きく成長しました。技術の移り変わりが早い業界で常に先を見ることを重要視する当社にとって、今回の補助金は、未来への投資という視点でも有意義なものになったと感じています。

製造部 部長 山口 信之





## 麦芽製造から醸造まで 「佐賀の、佐賀による、佐賀のための」 クラフトビールが誕生



佐賀アームストロング醸造所で  
生産するビール

### Company 会社概要



醸造所のシンボル

#### コトブキテクレックス株式会社

・従業員：84名 ・創業年：1932年

千葉県に本社工場を置き、食品、および化学工場向けにタンクや、圧力容器の製造、設置施工を行う。神奈川、三重、佐賀のほか、中国とタイにも拠点を展開する。

〒 840-2104  
佐賀県佐賀市諸富町徳富 159-1  
(佐賀アームストロング醸造所)  
<https://www.kotobuki-techrex.co.jp/>



### Challenge 課題

#### 輸入麦芽に依存する日本のビール業界に 一石を投じる野心的な試み

大手ビールメーカーや100社以上のクラフトビール会社向けに仕込み設備や発酵タンクを納入するコトブキテクレックス。佐賀県が日本最大の大麦産地であることに着目し、佐賀の大麦＋自社のプラント技術＝「佐賀の、佐賀による、佐賀のための」クラフトビールを目指してキックオフした。しかし、国産麦芽のシェアはわずか4%。大麦とプラント技術はあるが、肝心の麦芽製造装置とその運用ノウハウは一部の大手ビールメーカー以外どこにも無い。ドイツの文献を読み解き、一から勉強するしかなかった。



自社で製造した醸造タンク



### Solution ✓ 支援内容

#### 細やかなサポートにより補助金採択、 自社製麦芽の開発に成功

麦芽製造装置開発とその運用ノウハウの研究を進めていたタイミングで「きらめく」新技術・新製品開発事業の情報を入手。イノベーションセンターにて申請書類作成のサポートを受け、採択が決定したことで開発が加速した。補助金は研究開発費のほか、独自開発の麦芽製造装置導入にも活用。



開発に成功したオリジナル大麦麦芽



新設された麦芽製造装置

ビール用大麦サチホゴールドンをもとにした自社製麦芽の開発に成功し、原料の生産から醸造まで全工程が佐賀で完結する「佐賀の、佐賀による、佐賀のための」クラフトビールの誕生に至った。そのエッセンスの集大成、「Sagan Salute ストロングバーレー」が「インターナショナル・ビアカップ2024」で金賞受賞した。

### Point ここがポイント！

佐賀産モルト100%  
クラフトビールが完成、  
アワードで金賞獲得！

### Impression 支援を受けて

国内に前例がない、麦芽製造装置とその運用ノウハウをゼロベースから開発するにあたって、ドイツの文献を読み解き研究を進める私たちにとって、イノベーションセンターは、幕末佐賀藩の精煉方のような存在でした。出来上がった麦芽の評価試験に際し、戸惑う私たち達に佐賀県工業技術センターをご紹介くださり、研究開発が正しい方向に進捗していることを確認できました。佐賀産大麦の麦芽開発からクラフトビールの完成に至るまで、幾多の困難がございましたが「インターナショナル・ビアカップ2024」金賞受賞は、世界的な評価に止まらず、佐賀テロワールが評価されたことだと思います。

波及効果として、ビールも、醸造プラントも、麦芽製造装置も、たくさんのお引合いをいただいております！

代表取締役 松本 憲幸



### Message 支援担当からの メッセージ

麦芽生産から製品化まで行っているブルワリーは国内でも稀ですので、私どももお力になればとサポートさせていただきました。

技術振興課  
コーディネーター 桂城 博行



技術振興課 TEL：0952-34-4413



岸川農園のいちご

## 観光農園の立ち上げをサポート ブランディングと集客に成功

### Company 会社概要



ハウス外観

#### 岸川農園

・従業員：9名 ・創業年：1975年

国内でも珍しい9種類もの品種を栽培するいちご農園。JA共進会長賞優秀賞を14回連続受賞したほか、1998年には生産改善共進会において農林大臣賞を受賞。

〒849-0402  
佐賀県杵島郡白石町福富下分 295  
<https://kisigawa.com/>



### Challenge 課題

#### 50年続くいちご農家が初めて観光農園に挑戦

佐賀県白石町で三代続く岸川農園は、開園以来、最新技術を他農家に先駆けて導入するなど挑戦を続けてきた。二代目は多品種のいちごを栽培。中でも看板商品の「淡雪」は、国内でも栽培している農家が少なく希少価値が高い品種で人気を博す。この淡雪をはじめとした自慢のいちごを、白石町を訪れる方や地元の方にもっと味わってもらいたいと、三代目が代表となり観光農園の開設を計画。観光農園の設計から集客までトータルな支援をイノベーションセンターに依頼した。



いちごを栽培するハウスの内部



### Solution 支援内容

#### オペレーションからPRまで 総合的かつ細やかな支援

高品質ないちごを楽しむ「プレミアムないちご狩り」をテーマに開設準備がスタートした。イノベーションセンターでは、ハウスの通路巾拡張、園内装飾、価格設定、会計や接客といったオペレーションの仕組み構築、大手が提供する予約システムの活用方法、「いちごの駅」と名付けた観光農園のロゴの商標登録、イメージキャラクター、チラシやリーフレット、のぼり旗のデザインなど、各分野の専門家による細やかな支援を行った。



オリジナルキャラクターをペイントしたフォトスポット



支援を受けて制作したのぼり旗

重油タンクにペイントを施したフォトスポットの設置やプレスリリース、SNSなど情報発信に関する助言や支援が功を奏し、佐賀や福岡のテレビ出演も果たす。2022年1月5日のオープンから同年5月5日までの来園人数は目標の5000人を大きく上回り、次年度はそれを超えた。当初は4棟だった観光農園用のハウスは2年目から6棟に増えた。

Point  
ここがポイント!

ノウハウゼロから開園へ。  
多くのお客様で賑わう  
人気スポットに!

### Impression 支援を受けて

いちごの栽培は長年行ってきましたが、観光農園はまったく初めてのことでした。何から着手していいのかもわかりませんでした。基礎的なことから丁寧に教えていただけました。おかげさまで無事に開園を迎え、多くのお客様に恵まれております。最も嬉しかったのは、私たちが育てたいちごをお客様が目前で食べて「おいしい!」と喜んでくださったことです。観光農園を始めて本当に良かったと喜びをかみしめています。来園される観光客の中には外国からの方も多く、多言語対応が今後の課題です。また、いちご狩りのオフシーズンである夏期にも楽しんでいただけるようにスイーツの開発にも挑戦したいと思っています。今後もさまざまな工夫でいちごのおいしさを広め、観光スポットとして町の発展にも寄与したいと考えています。



岸川農園





看板商品のプリンソフト、プリン各種、焼き菓子、ギフトボックス

## 「牛乳のおいしさを伝えたい！」 酪農から新規事業への挑戦

### Company 会社概要



FLYING COW 店舗

### 大富牧場 FLYING COW

・従業員：13名 ・創業年：1970年

乳牛と肥育牛の牧場を3代にわたって営む。  
2018年プリンの製造を開始、2020年から店舗での販売も行う。  
牛乳の味を生かしたソフトクリームにも定評がある。

〒849-0102  
佐賀県三養基郡みやき町麓原 708

[https://www.instagram.com/flyingcow\\_ohtomi/](https://www.instagram.com/flyingcow_ohtomi/)



### Challenge 課題

#### 自社生乳を活用した新製品開発と販路拡大

家族で牧場を営んできた酪農家が、生乳を活かした新規事業としてプリンの製造販売に挑戦。  
初めてのことで右も左もわからない状況の中、事業主の豊かなアイデアを整理し、実現に向けて具体的な事業計画に落とし込んでいくことが求められていた。  
また、この新たな取り組みを多くの人々の認知につなげ、長く愛される商品へと育てていくためのブランディングや広報活動も必要であった。



大富牧場の風景



### Solution 支援内容

#### 事業計画からブランディングまで 長期に渡って伴走支援

イノベーションセンターでは、FLYING COWの立ち上げ当初からロゴ、パッケージ、ラベルのデザインなどのブランディングや事業拡大に向けた計画策定等について支援を重ねてきた。  
2020年には店主大富氏の旗振りにより「プリン県さが実行委員会」を設立し、県内全域の有志とともに「さがプリンマップ」を制作。佐賀のプリンが話題を集め、FLYING COWの売上も2022年から2023年で2.5倍に伸びた。  
その次なる挑戦として、プリンの成功体験を活かしてソフトクリームの製造販売にも着手。



店内に並ぶ商品



FLYING COW のテラス席。  
ソフトクリームを求める人で行列ができることも

プリンと組み合わせた「プリンソフト」がヒットし、メディアに取り上げられたことなどの効果で行列ができるほど人気となった。  
さらに、乳製品製造業の資格を活かして多種多様なソフトクリームの製造を開始し、それをメイン商品とする2号店を2024年度中に鳥栖市にオープン。こうした取り組みによってさらなるファン獲得、市場拡大が期待できる。

### Point ここがポイント!

#### プリンの成功を活かして、 新規事業計画を推進

### Impression 支援を受けて

立ち上げ前は、やりたいことはいろいろと頭に思い浮かぶものの、それを具体的なビジネスにする方法がわかりませんでした。  
その状態から伴走支援をしていただき、今に至っています。  
おかげさまで多くの方に認知していただき、チャレンジを続けながら売上げを伸ばすことができています。  
何事も始めるまではうまくいかかわからない不安がありますが、専門的な視点で助言をいただき、達成すべき数字が見えてくると腹をくれるものですね。何でも相談できるので心の支えにもなっています。  
イノベーションセンターとの関わりを通して、起業家仲間も増えました。  
今後ともよろしくお願いいたします。

店主 大富 藍子



### Message 支援担当からのメッセージ

大富さんのアイデアやスピード感が頼もしい限りです。  
それを最大限生かすご提案や助言で、今後も伴走していきます。

農村ビジネス振興課  
コーディネーター 田崎 博文



農村ビジネス振興課 TEL：0952-34-4418



## 白石産タマネギ加工品の リブランディング ロゴやパッケージを刷新



リニューアルしたギフトボックス、  
パッケージ、リーフレットなど

### Company 会社概要



新たに制作したロゴマーク

#### りんふぁーむ

・従業員：2名 ・創業年：2021年

白石町の水田で生産するタマネギの中から規格外のものを活用し、スープ、ドレッシング、ソースを製造販売。小城市三日月町に加工場を構える。

〒849-1221  
佐賀県杵島郡白石町新拓 973  
<https://www.rin-farm.net/>



### Challenge 課題

#### ギフト商材として新たな市場を開拓したい

これまでに白石産タマネギをふだんに使用した商品「オニオングラタンスープ」「生たまねぎドレッシング」「ジャポネソース」を開発し、県内の直売所や道の駅で販売してきた。  
今後は百貨店でのギフト商材としての市場開拓、販路拡大をめざしたいと考えており、パッケージデザインなどを見直す必要性を感じていた。



タマネギが生まれる白石町の畑



### Solution 支援内容

#### 歴史と想いを可視化した ブランドコンセプトをデザインに

新たな市場の開拓を目指すにあたって、りんふぁーむというブランドを改めて基礎から構築することを提案。  
専門家のヒアリングによって、白石町で2代に渡ってタマネギ農家を営んできたストーリーを棚卸しし「干拓地の歴史と海からの恵みへの感謝が詰まったおいしいタマネギ」というブランドコンセプトが言語化された。



ドレッシングの使用例



オニオングラタンスープ

ブランドコンセプトをビジュアルで表現したロゴマークを制作。ギフト商材として的高级感と温かみを両立したパッケージデザインやリーフレットも刷新した。  
統一感のあるデザインと独自のストーリーで商品の魅力を訴求した結果、佐賀県、長崎県、熊本県の百貨店にギフトカタログ掲載商品として採択された。

Point  
ここがポイント!

県内外の百貨店  
ギフトカタログ商品に採択!

### Impression 支援を受けて

イノベーションセンターには、加工場の設立当初からお世話になっていました。  
白石産タマネギ加工品をもっと多くの人に食べてもらいたいと市場拡大を考えた時、これまでの素朴なパッケージから洗練されたデザインへの刷新が必要だと考えて相談。紹介されたデザイナーの先生とたくさん話して「林家の年表」を作るくらい歴史を詳しく紐解きました。  
親から受け継いできた思いが詰まったデザインが出来て嬉しかったのはもちろん、改めて歴史の重みを感じ、背筋が伸びる思いです。  
畑仕事との両立で忙しい日々ですが、これからも頑張ろうとやる気が湧きました。引き続き頼りにさせていただきながら、ギフト販売を軌道に乗せていきたいです。

りんふぁーむ 林久代



### Message 支援担当からのメッセージ

林さんのタマネギのおいしさ、素晴らしさを改めて感じました。  
これから全国にもっとファンが増えることを期待しています。

農村ビジネス振興課  
コーディネーター 志波 弘章



農村ビジネス振興課 TEL: 0952-34-4418

## ✓ センター概要

### About us

## 佐賀県産業イノベーションセンターとは

当センターは県内中小企業の皆様の生産性向上や売上向上、新商品・製品開発、人材確保などの様々な経営課題の解決に向けた支援を行っている中小企業支援機関です。

デジタル・トランスフォーメーションやグリーン・トランスフォーメーションへの果敢なチャレンジや、安定した人材確保のための収益改善や、賃金アップの取組等を重点的に支援しています。

### 企業のチャレンジを支援

重点取組：DX（デジタル化）・GX（グリーン化）・賃金アップの推進

#### 生産性の向上

- 技術力向上
- 生産効率化
- 経営力向上
- 経営改善
- 現場改善
- 品質管理

#### 売上向上

- 工業製品の販路拡大
- 農林水産物、加工食品
- 取引あっせん

#### 新商品・製品の開発

- 新製品・知的財産の活用促進
- シンクロトロン光の利活用
- 農村ビジネス
- 6次産業化の推進

#### 人材確保

- 産業人材の確保
- 経営課題の解
- 経営戦略の策定

佐賀県内中小企業の皆様から信頼され、頼られる存在へ。

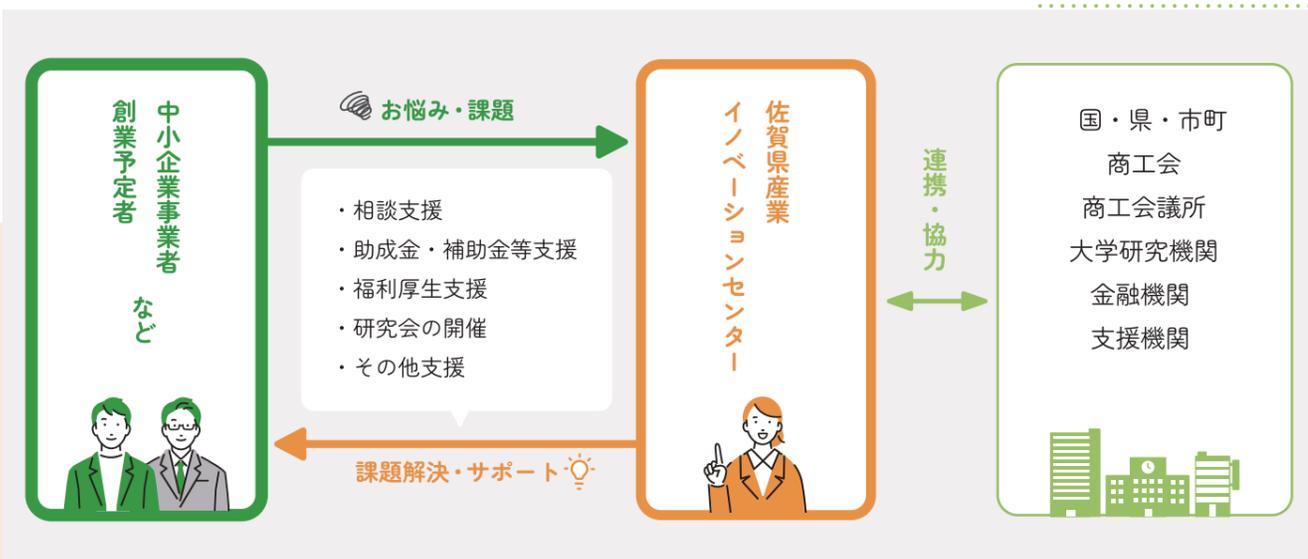
経営課題の解決に向けたチャレンジを支援し、県内産業の発展に貢献します。

### Flow

## 支援フロー

経営者の皆様の課題やお悩みを、私たちが一緒に解決します！

関係機関等と連携し、様々なサポートを行います。



### Details

## 支援内容

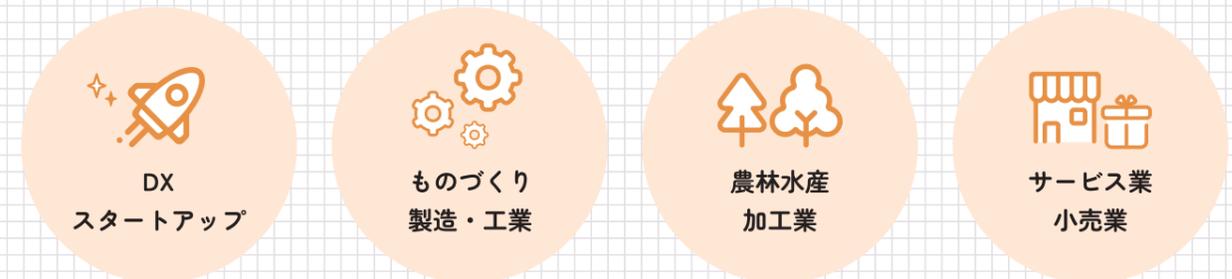
各分野のプロフェッショナルによるアドバイスや各種支援策をご紹介します。

大手・地元企業、公的試験研究機関等での経験が豊富な人材が親身になってサポートいたします。

ものづくり製造業から農林水産事業者、サービス業まで幅広い分野でサポートできる体制を整え、相談対応だけでなく、研究・商品開発に係る助成金事業など支援メニューも豊富に取り揃えています。

生産性向上	新商品・新事業	販路拡大	経営戦略・改善
研究開発	IT・DX・GX	知的財産	助成金・補助金
福利厚生	研修会開催	施設貸与	貸出図書

### Field 支援分野



### Contact 担当窓口

<p>✧ ものづくり振興課</p> <p>支援事例 p.03-12 TEL 0952-34-4416</p>	<p>✧ 人材・経営戦略課 (よろず支援拠点)</p> <p>支援事例 p.13-20 TEL 0952-34-4422 よろず支援拠点 TEL 0952-34-4433</p>
<p>✧ 技術振興課</p> <p>支援事例 p.21-26 TEL 0952-34-4413</p>	<p>✧ 農村ビジネス振興課</p> <p>支援事例 p.27-32 TEL 0952-34-4418</p>
<p>知財支援課</p> <p>TEL 0952-30-8191</p>	<p>サービスセンター</p> <p>TEL 0952-34-5522</p>



Saga Industrial Promotion Organization

## 公益財団法人 佐賀県産業振興機構 佐賀県産業イノベーションセンター

挑戦し続ける中小企業を、一步先へ。  
各分野のプロフェッショナルと連携し、  
頼れるパートナーとして寄り添いサポートします。



公益財団法人 佐賀県産業振興機構  
佐賀県産業イノベーションセンター

〒849-0932 佐賀市鍋島町八戸溝 114

TEL 0952-34-4411 (代)

FAX 0952-34-4412 (代)

受付時間 8:30 ~ 17:15  
(土日祝日・年末年始を除く)

<https://www.infosaga.or.jp/>

